

特集

北里記念医学図書館80年：
これまで、そしてこれから

特集にあたって

さとう やすゆき
佐藤 康之

(信濃町メディアセンター事務長)

2017年、慶應義塾大学医学部開設100年記念の年に信濃町メディアセンター（北里記念医学図書館）は開設80年の節目を迎えた。1937年、初代医学部長北里柴三郎博士の功績を称え、後世に伝えようとする多くの篤志家の思いが北里記念医学図書館を誕生させた。以来、歴代館長及び図書館員の奮闘ぶりの詳細は『慶應義塾大学医学部六十周年記念誌』の「医学情報センター（北里記念医学図書館）」記載部分に譲ることとし、本特集では主に記念誌以来の経過をオンライン情報検索や電子情報源の誕生、大学病院の支援などで振り返るとともに、学術情報の電子化という劇的な変化の中で、主に情報リソースと利用者サービスの側面から現在の信濃町メディアセンター

を紹介したい。さらに、これから先を展望するものとして、中心的な利用者である医療職及びそれを目指す方々による座談会を企画した。信濃町キャンパスにいと、ここは医師や看護師といった高度な専門職が学部教育を受ける場として始まり、やがては生涯にわたって自らキャリア形成していく場であることに改めて気付く。また、その専門性を育みながら人類の健康と福祉に貢献する場としての大学病院もある。信濃町メディアセンターの「これまで」は、設立の経緯やこれらのキャンパス特性に対応したものであった。また、「これから」を予測することは容易ではないが、座談会で語られた医療職の活動のなかに、これから向かう先の一端が見えると考えている。



1937年開館当初



1963年撮影



2016年撮影